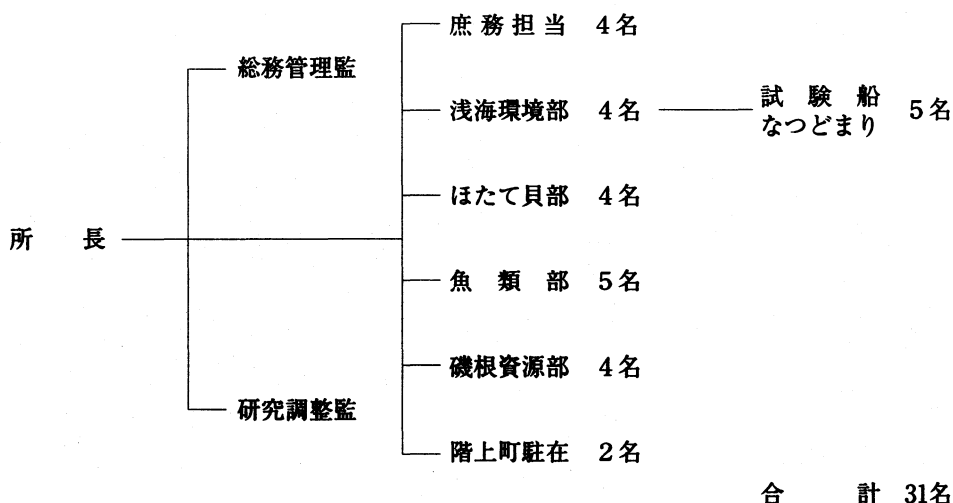


庶務概要 (18年度)

1 組織



2 職員名簿

部署	区分	職名	氏名	部署	区分	職名	氏名
	研究職	所 長	田 村 眞 通	魚類部	研 究 職	部 長	工 藤 敏 博
	〃	研 究 調 整 監	塩 垣 優		〃	研 究 管 理 員	中 西 廣 義
	行政職	総務管理監	高 谷 文 昭		〃	技 師	小 泉 広 明
庶務担当	行政職	主 査	荒 田 茂		〃	技 師	廣 田 将 仁
	〃	主 査	佐 藤 節 子		技 能 職	技 能 技 師	鹿 内 満 春
	〃	主 事	久 須 美 信 樹	磯根資源部	研 究 職	部 長	桐 原 慎 二
技能職	技 能 技 師	鹿 内 長 一	〃		主 任 研 究 員	山 田 嘉 暢	
浅海環境部	研 究 職	総括研究管理員 (部長事務取扱)	三津谷 正		〃	主 任 研 究 員	高 橋 進 吾
	〃	主 任 研 究 員	今 井 美 代 子		〃	技 師	小 向 貴 志
	〃	主 任 研 究 員	小 野 寺 陽 子	階上町駐在	研 究 職	技 師	高 橋 宏 和
〃	技 師	高 坂 祐 樹	技 能 職		技 能 技 師	尾 鷲 政 幸	
ほたて貝部	研 究 職	総括研究管理員 (部長事務取扱)	小 坂 善 信	なつどまり	海 事 職	船 長	山 田 雅 治
	〃	主 任 研 究 員	吉 田 達		〃	機 関 長	立 花 勝 雄
	〃	技 師	山 内 弘 子		〃	二 等 航 海 士	高 木 広 美
	技能職	技 能 技 師	川 村 要		技 能 職	機 関 員	高 屋 敷 一 成
					甲 板 員	星 野 元 紀	
		研 究 職	18名	行 政 職	4名		
		海 事 職	3名	技 能 職	6名		
		合 計	31名				

3 歳出予算執行状況

(単位：千円)

事業種目	事業内容	決算額
水産業総務費		265,168
職員費		265,168
人件費	職員給料、諸手当、共済費、非常勤労務員賃金	265,168
増養殖研究所費		329,107
所費		55,176
一般管理費	管理運営費	40,174
なつどまり運航管理費	試験船「なつどまり」の運航管理費	12,974
研究設備整備費	研究機器の整備	2,028
試験研究費		17,373
ほたてがい増養殖IT推進事業費	天然採苗予報調査、地まき漁場調査、養殖実態調査	1,722
ホタテガイによる環境モニタリング法に関する研究開発費	殻体運動による環境変動の情報収集と解析	1,246
ナマコ資源の維持培養による清らかな海の里づくり試験費	ナマコ資源の維持、培養技術の開発	7,500
海藻の幸による清らかな海の里づくり試験費	クロモ等の海藻増養殖の開発	1,858
美味しいほたてがい生産手法開発試験費	養殖種類別試験・旨味成分の分析	1,267
ほんだわらが育む豊かな海づくり試験費	ヨレモクの養殖技術の開発	2,980
指定疾病等状況調査	感染状況調査、稚貝への死原因調査	800
種苗生産事業費		20,011
アクアトロン施設運営費	アクアトロン機械施設の運営保守管理	18,987
海産魚類防疫巡回指導事業費	海面増養殖における魚病の早期診断と防疫指導	1,024
指定試験研究費		3,741
浅海定線調査費	陸奥湾8定点における海洋観測	490
磯焼け対策実証調査事業費	磯焼けした増殖場の機能回復技術の開発	3,251
陸奥湾海況予報確立調査費		232,806
陸奥湾海況自動観測費	陸奥湾海況自動観測システムによる観測及び情報提供	7,439
陸奥湾海況予報高度化技術確立調査費	海況観測データの解析と陸奥湾海況予報の高度化	403
陸奥湾海況自動観測システム更新事業費	陸奥湾海況自動観測システムの更新整備	224,964
合計		594,275

4 調査、研究報告及び資料・情報等の発行

(1) 公刊した報告書

報 告 書 名	発 行 機 関	発行年月
青森県水産総合研究センター増養殖研究所 事業報告 第36号 (平成17年度)	増養殖研究所	平成19年 3月
平成18年度貝毒安全対策報告書	増養殖研究所ほか	平成19年 3月
平成18年度資源管理体制機能強化実施推進事業 浅海定線調査結果報告書 (陸奥湾)	増養殖研究所	平成19年 2月

(2) 増養殖研究所情報

情 報 名	期間及び回数
ホタテガイ採苗速報 No.442~458 同上 (東奥日報紙)	平成18年 3月~19年 3月 (17回) 同上
ホタテガイ養殖管理情報 同上 (東奥日報紙)	平成18年 6月~18年 9月 (4回) 同上
陸奥湾海況情報 No.569~620	平成18年 4月~19年 3月 (毎週火曜日、52回)
陸奥湾の水温 (東奥日報紙)	平成18年 4月~19年 3月 (毎日)
沿岸の水温、茂浦 (読売新聞紙)	平成18年 4月~19年 3月 (日曜休日を除く毎日)

(3) 増養殖研究所だより

発行番号	発行年月日
第107号	平成18年 6月15日
第108号	平成19年 1月30日

(4) 学会誌等発表論文

Kirihara, S., T. Nakamura, N. Kon, D. Fujita and M. Notoya. 2006. Recent fluctuations in distribution and biomass of cold and warm temperature species of Laminariales at Cape Ohma, northernmost of Honshu, Japan. *Japan J. Applied Phycology*, 18 : 521 - 527.

Kosaka, Y. and H. Ito. 2006. Chapter 22. Japan, pp.1093-1141. In: *Scallops: Biology, ecology and Aquaculture, Second Edition. Developments in Aquaculture and Fisheries Science, Vol. 35.* Ed: Sandra E. Shumway and G. Jay Parsons, xxxix + 1460pp, Elsevier, New York.

廣田 将仁. 2006. 青森県産サクラマスの高付加価値化にかかるチャネル設定に関する研究. *北日本漁業*, 34 : 70 - 86.